

特別管理産業廃棄物処理計画書

令和5年4月24日

都道府県知事 様



提出者 東京化成工業株式会社
 住 所 埼玉県深谷市榎合725番地
 氏 名 鈴木 博之
 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名)
 電話番号 048-571-1107

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

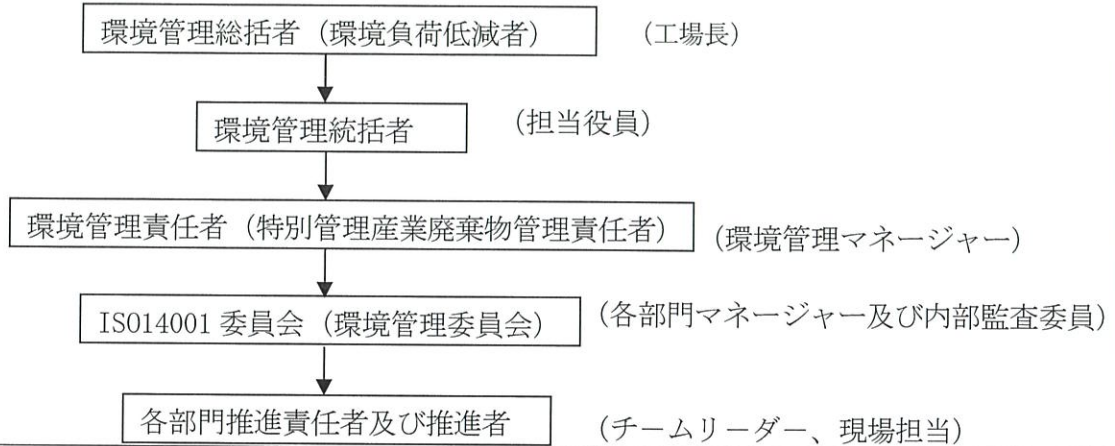
事業場の名称	東京化成工業株式会社深谷工場
事業場の所在地	埼玉県深谷市榎合725番地
計画期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

①事業の種類	1697・試薬製造業
②事業の規模	非公表
③従業員数	480名
④特別管理産業廃棄物の一連の処理の工程	<pre> graph LR A[仕込] --> B[反応] B --> C[処理] C --> D[回収] D --> E[蒸留] E --> F[製品] D --> G[再結] G --> H[廃溶剤] H -- 回収 --> D D --> I[回収溶剤] </pre> <p>・原料 ・溶剤 ・副原料</p>

特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図) 深谷工場



特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度 (令和 4年度) 実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃油	廃酸
	排出量	1,162t	464.3 t
	(これまでに実施した取組) <ul style="list-style-type: none">・ 廃棄物発生の抑制再生利用を考慮した製造方法 (マニュアル) への変更。・ 再資源化、熱回収 (燃料化) を推進するとともに再生利用ルート (再生利用業者) の確保。・ 廃棄物の発生量の削減、再生利用率の拡大等について数値目標及び達成時期を定め、処理に関する目標及び計画を定期的に監査、必要に応じ修正をおこなう		
②計画	【目標】 令和5年度		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃油	廃酸
	排出量	1,000 t	400 t
	(今後実施する予定の取組) <ul style="list-style-type: none">・ これまでに実施した取り組みの拡充。・ 廃棄物の発生、再生利用を考慮した廃棄物の排出方法及び分別の徹底。・ 品質に係る工程を除く再生品の再使用率を増やす。		

特別管理産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) <ul style="list-style-type: none">・ 廃棄物の発生抑制、再生利用を考慮した廃棄物の排出方法及び分別の徹底。・ 廃棄物の発生抑制、再生利用についての社内教育訓練。
②計画	(今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) <ul style="list-style-type: none">・ 廃棄物の発生抑制、再生利用を考慮した廃棄物の排出方法及び分別の徹底。・ 廃棄物の発生抑制、再生利用についての社内教育訓練の継続。

(第3面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項

① 現状	【前年度（令和 4年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃油	廃酸
	自ら再生利用を行った特別管理産業廃棄物の量	388.7 t	0 t
	（これまでに実施した取組） <ul style="list-style-type: none"> 再生溶剤の燃料化 <ol style="list-style-type: none"> 溶剤ボイラーの設置（H17年）。再生溶剤を燃料に利用。 廃棄物焼却炉の設置（H17年）。再生溶剤を補助バーナーの燃料に利用。 廃棄物の発生抑制、再生利用についての社内教育訓練。 		
②計画	【目標】令和5年度		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃油	廃酸
	自ら再生利用を行う特別管理産業廃棄物の量	430 t	0 t
	（今後実施する予定の取組） <ul style="list-style-type: none"> 廃棄物発生の抑制再生利用を考慮した製造方法（マニュアル）への変更の継続。 廃棄物の発生抑制、再生利用についての社内教育訓練の継続。 再生品の再使用率を上げるための励行活動。 		

自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項

① 現状	【前年度（令和 4年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃油	廃酸
	自ら熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量	171.2 t	0 t
	自ら中間処理により減量した特別管理産業廃棄物の量	171.2 t	227.0 t
②計画	【目標】令和5年度		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃油	廃酸
	自ら熱回収を行う特別管理産業廃棄物の量	150 t	0 t
	自ら中間処理により減量する特別管理産業廃棄物の量	150 t	200 t
（今後実施する予定の取組） <ul style="list-style-type: none"> 廃掃法及び埼玉県生活環境保全条例の遵守及びそれらに変更があった場合の社内規準の改定。 廃棄物の発生抑制、再生利用についての社内教育訓練の継続。 			

(第4面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項

① 現状	【前年度（令和 4年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃油	廃酸
	自ら埋立処分を行った特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) ・ 廃掃法及び埼玉県生活環境保全条例の遵守。		
② 計画	【目標】 令和5年度		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃油	廃酸
	自ら埋立処分を行う特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) ・ 廃掃法及び埼玉県生活環境保全条例の遵守。		

特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度（令和 4年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃油	廃酸
	全処理委託量	602.2 t	254.7 t
	優良認定処理業者への処理委託量	189.8 t	122.6 t
	再生利用業者への処理委託量	399.2 t	0 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) ・ 廃掃法及び埼玉県生活環境保全条例の遵守及び社内規準の遵守。 ・ 廃棄物発生の抑制及び再生利用ルート（再生利用業者）の確保。 ・ 廃棄物の発生抑制、再生利用についての社内教育訓練。		

②計画	【目標】令和5年度		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃油	廃酸
	全処理委託量	540 t	230 t
	優良認定処理業者への処理委託量	189 t	130 t
	再生利用業者への処理委託量	380 t	- t
	認定熱回収業者への処理委託量	- t	- t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	- t	- t
	(今後実施する予定の取組) <ul style="list-style-type: none"> ・ 電子マニフェスト運用継続。 ・ 廃掃法及び埼玉県生活環境保全条例の遵守及びそれらに変更があった場合の社内規準の改定。 ・ 廃棄物発生の抑制及び再生利用ルート（再生利用業者）の確保。 ・ 廃棄物の発生抑制、再生利用についての社内教育訓練の継続。 ・ 優良認定処理業者への処理委託。 ・ 認定熱回収業者への処理委託。 		
電子情報処理組織の使用に関する事項	【前年度（令和4年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物 排出量 (ポリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。)	1, 626.3 t	
	(今後実施する予定の取組) <ul style="list-style-type: none"> ・ 電子マニフェスト運用継続。 ・ 廃掃法及び埼玉県生活環境保全条例の遵守及びそれらに変更があった場合の社内規準の改定。 ・ 廃棄物発生の抑制及び再生利用ルート（再生利用業者）の確保。 ・ 廃棄物の発生抑制、再生利用についての社内教育訓練の継続。 ・ 優良認定処理業者への処理委託。 ・ 認定熱回収業者への処理委託。 		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入すること。
- 6 「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令（以下「令」という。）第6条の14第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 7 「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前年度の特別管理産業廃棄物の全発生量（ポリ塩化ビフェニル廃棄物（令第2条の4第5号イからハまでに掲げるものをいう。）を除く。）を記入すること。その量が50トン以上の者にあつては、今後の電子情報処理組織の使用に関する取組等（情報処理センターへの登録が困難な場合として廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第8条の31の4に該当するときは、その旨及び理由を含む。）について記入すること。
- 8 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 9 ※欄は記入しないこと。